



「野火」 撮影 / 松隈 康徳

ピンボケ会

特選
草餅や両刀遣ひの仏さま

本選
踏青や寺の名のつく無人駅
青き踏む兔波とらなみかがやく寇あだの海
鉄の柄を少し短く春耕す
連れ合ひの浮雲一つ青き踏む

原口 孝子
花田ムツ子
野上マチ子
摩治 廣子
平嶋 幸子

俳句会

(三月例会)

大庭土筆選

短歌会

(四月例会)

藤村 学選

男おとこの孫の出張土産をもらひたり賞味期限のその当日に
貫つらひたる巨大キャベツが気づいたら犬のリックかじに齧かじられていつ
長明寺にミドル男女のコーラス団(コロ・マーヤ)の軽やかな声
孕はら寿超えしわれが裡うちなる糧かじとして弓道の師の餞うたの(詩)あり
信号が赤でも渡る歩行者に(ゴールド免許)はいらつきません

神崎 鈴子
茂手木こと子
金田トシ子
河上美代子
井上あつ子

入賞

<剣道>桂川町修刀館 練習生が各種大会で入賞

【平成28年度嘉飯地区少年剣道錬成大会(3月12日)】

部門	順位	氏名
小学6年生の部	3位	塚本 晴大
錬成会 皆勤賞		中嶋大雅、持永亜弥、持永大起、 平田溪介、森悠翔、安部志、 安部悠、谷口凌麻、西川律輝、 小西武、神崎太一、森遥陽

【第18回龍王杯飯塚少年剣道大会(3月20日)】

部門	順位	団体名・氏名
団体の部	第3位	桂川町修刀館A 塚本晴大、平田溪介、 持永大起、諫山裕一斗、 平田凜
個人の部 小学3年生の部	第3位	塚本勝大



編集*後記

Editorial Postscript

- ▶「俳句をやっている」と言うと、「すごいね!」「へー」「年寄りくさい」「地味」「なんで俳句?」「一句読んで」など、色々な反応が返ってきます。愛媛県松山市で過ごした大学時代、先輩に誘われて参加した「愛大俳句研究会」の句会が始まりで、俳句歴はもう10年以上になります。
- ▶『俳句なんてジジイのうわ言、ババアのたわ言』なんて言葉を俳人自らが自虐的に言うほど、若者には馴染みの薄い俳句ですが、現代俳句の祖、正岡子規の故郷である松山市は、小中高での俳句の授業も熱心で、若者にも比較的俳句が身近な街です。
 - ▶某テレビ局で毎週木曜日19時に放送中の某番組。芸能人が作った俳句を、おぼちゃんの俳人がげちょんげちょんに言いまくる番組をご存じですか?
あのおぼちゃん俳人、夏井いつきさんは、松山市を活動拠点とする「いつき組」の代表として俳句活動を行っています。
 - ▶いつきさんは、私の大学時代の俳句の師匠のような方で、句会に参加したり、組の機関紙に記事を寄稿させていただいたりしていました。また、小・中学生を対象に全国各地で行っている「句会ライブ」という俳句教室のお手伝いをさせていただいたことも。そんな経験を活かして、現在、桂川町教育委員会が取り組んでいる「学校支援ボランティア」に、「俳句の指導」という形で個人的に登録させていただいています。
- ▶昭和30~40年代の炭坑全盛期。桂川町を含むこの辺り一帯では、各炭坑ごとに毎晩のように俳句の句会が行われていたそうで、毎月「文化・芸術の広場」に投稿いただいている桂川町俳句会の歴史も長く、桂川は意外と俳句に縁のある町です。
- ▶炭坑閉山で人口が減る中、少しずつ俳句人口も減っていきました。俳句をはじめとした文芸活動が、子どもたちを中心に桂川町でもっと活発になればいいなと思う今日この頃です。

満月をガバリ飲み込む鯨かな

